

鳥獣害から 農作物を守る

●はじめに

有害鳥獣による農作物被害の解消は、地域農業の活性化を図るうえで重要な課題です。

特に「ニホンザル」による農作物の被害が深刻になっており、被害の著しい地域では、被害防止体制の整備が急務になっていますが、まず相手をよく知り、地域全体で適切な対策を講じていかなければなりません。

まず第一に、集落周辺の遊休農地を減らし、草刈りをするなどして動物たちの隠れる場所をなくすこと。エサとなる農作物（果樹）や食品の残さを放置しないなど、集落に入れさせない環境をつくるのが大切です。

そのうえで、追い払い・有害鳥獣捕獲（駆除）や電気柵等の侵入防止対策を組み合わせ、継続的に実施していくことが重要となります。

本冊子は、「ニホンザル」の被害対策として個々の農業者ができる基本的な取り組み及び村上市有害鳥獣被害防止対策協議会が実施した対策の事例について紹介したものです。



写真：ニホンザルにより被害を受けた畑

●対策の心構え

- 相手を知る!!
- 当事者になる!!
- 地域全体で共通の認識を持つ!!
- あきらめない!!
- 隠れる場所をなくす!!（遊休農地をなくす、農地周辺の草刈り）
- エサを与えない!!（農作物、食品の残さを放置しない）
- 一つの対策を過信せず、工夫・アレンジする!!
- 長期的な視野に立つ!! 複数の有効な対策を組み合わせる!!

村上市有害鳥獣被害防止対策協議会

相手を知り対策を!

【ニホンザル】



特徴 すぐれた学習能力

① エサは集落のなかで覚える

ある地域では、被害にあわない野菜や果樹をサルの嫌いな作物として栽培し、他の地域ではその作物がサルの大好物だという事例があります。これは、サルが食べ慣れた作物を食べながら、集落のなかで食べられるものを少しずつ覚えていくことで、食べられるものが増えているとされています。現在、全国的にも被害が確認されていないのは、トウガラシ・こんにゃく・シソなどわずかであると報告されています。

② 甘やかしてはいけない離れザル

サルが群れでやってくるようになる前、一匹から数匹のサルが集落にやってくる場合があります。このサルに珍しがってエサをやると餌づけにつながります。このサルは群れを代表して集落の偵察にきたものと考え不用意にかわいがってはいけません。

③ サルの出産は数年に一回?

奥山のサルの出産は数年に一回とされていますが、エサが豊富な集落を拠点とするサルは毎年出産するサルが出てきています。集落をエサ場にしたままと、山の生活が苦手なサルがどんどん増え、被害も増加していくことになります。

④ サルにも弱点が…

サルは学習能力が高い動物ですが、その学習能力も習得するまでに時間がかかるとされており、隙を与えないことが大切です。最大の天敵である「人」の気配があるだけでもサルは定着しにくくなります。

サルは群れで行動するため、群れの数匹しか侵入できない農地などは、次第にあきらめて群れ全体がこなくなる事例も確認されています。

対策 できることから継続的に

① 集落をサルのエサ場にしない

「集落全体でエサがなくなればサルはやってこない」が合い言葉。しかし、気付かないところにエサ場はたくさんあることは共通認識に。たとえば未収穫野菜・果樹畑、放置された食品の残さ等の生ゴミ、墓地のお供え物等が考えられます。大がかりな対策をする前に集落を再点検し、エサ場としての魅力をなくすよう見直すのが防除の第一歩です。

② サルの苦手な農地をつくる

サルもやはり人前に身をさらすのは苦手です。農地の周囲のヤブを刈り払う、廃小屋など余計な構造物を取り除くなど、見通しを良くし農地に来にくくすることが大切です。

また、頻繁に被害にあう農地については、サルが好まない作物（トウガラシ・こんにゃく等）を栽培するなど、小さな嫌がらせの積み重ねも重要な対策です。

③ 絶対にあきらめない

不完全だと思われる個々の防除柵でも、やらないよりもずっと効果があり、防除した結果、近隣農地に迷惑をかける心配もありますが、むしろ畑で味を覚えさせサルを定着させる方が心配です。集落の一人でも多くの方が防除柵を設置するのが重要です。

たとえ、数匹のサルに防除柵を突破されてもあきらめることはなく、群れの特定の数匹しかエサにありつけないようなエサ場と認識すれば、サルはいずれ来なくなることも多いといえます。

また、柵内に侵入したところを人に見つかって脅かされるなど、怖い目にあうことの多い場所は避けるようになるといわれています。

まずは、鳥獣害の原因を突き止めましょう!!

農作物の被害防止対策は、集落・地域ぐるみでの取り組みが最も大切です。

「鳥獣被害防止対策点検リスト」を活用し、集落・地域みんなで話し合い、被害の原因や今後の取り組み等共通の意識・認識を高めましょう。

鳥獣被害防止対策点検リスト

分類	点 検 項 目	点 検 欄
環 境 点 検	家の庭や集落内の果樹は、全て収穫している	はい・いいえ
	お墓のお供え物は、必ず持ち帰る	はい・いいえ
	周辺の放棄果樹は、伐採した	はい・いいえ
	収穫しなかった作物は、畑に放置せず、すき込んでいる	はい・いいえ
	生ゴミは、外に放置していない	はい・いいえ
	耕作放棄地は、定期的な草刈りをし鳥獣の隠れ場所を減らしている	はい・いいえ
	集落や集落周辺の鳥獣の隠れ場所になりそうな茂みを減らしている	はい・いいえ
取 り 組 み 点 検	被害対策について集落で話し合っている	はい・いいえ
	集落・地域ぐるみで、追い払いや耕作放棄地の草刈りをしている	はい・いいえ
	取り組みには、集落・地域全員が協力し合っている	はい・いいえ
	サルを見かけたら、必ず追い払っている	はい・いいえ
ほ 場 点 検	とり残した農産物は、畑に放置していない	はい・いいえ
	畑には作物以外は、障害物がない	はい・いいえ
	被害にあう作物は全て防止柵等で囲んでいる	はい・いいえ
	防止柵は、作物から離して設置している	はい・いいえ
意 識 ・ 認 識 点 検	鳥獣は、どこからきてどこへ逃げていくか集落全員が知っている	はい・いいえ
	集落の被害実態を知っている	はい・いいえ
	被害対策は、防止柵に頼るだけでなく、エサ場等を無くす取り組みを総合的に行うことだ	はい・いいえ
	被害対策は、集落地域ぐるみで、力を合わせて行うものだ	はい・いいえ
	絶対に諦めない!	はい・いいえ

※ 「はい」が増えるよう集落・地域ぐるみで、取り組みましょう

※ 集落・地域の実情に合わせて項目の追加等を行いましょ

H23年度 実施事業の成果



テレメトリー調査（発信器活用の取り組み）

① テレメトリー調査とは…

専用の電波発信器をサルに装着し、発信する電波を受信することで、サルの位置や行動範囲を遠隔地から収集する調査をいいます。

② 調査データの活用方法は…

サルは群れで行動するため、群れの行動パターンを調査することができ、調査した行動パターンにより、おおよその出没予測をすることが可能になります。

この出没予測を基に、追い払いや捕獲（駆除）を計画的にできることや、サル群れを管理し適正な頭数管理を行うことが出来るようになります。（調査データは随時公表します）

③ 村上市全域でテレメトリー調査を開始しました

平成23年10月24日から12月8日の間、猟友会の協力を受けテレメトリー調査を開始するため、捕獲檻を使用しメスザルの捕獲を開始しました。この間に捕獲したメスザルの頭数は4頭で、全てのサルに発信器を装着し群れにかえました。（発信器を装着した群れは図1参照）

発信器装着日以降、試験的にテレメトリー調査を開始（図2、調査データ参照）し、平成24年度以降継続して調査を実施することとしております。

なお、村上市全域には20群以上生息していると思われ、全群に発信器を装着し調査（管理）を行う予定としています。

図1、発信器装着群全図

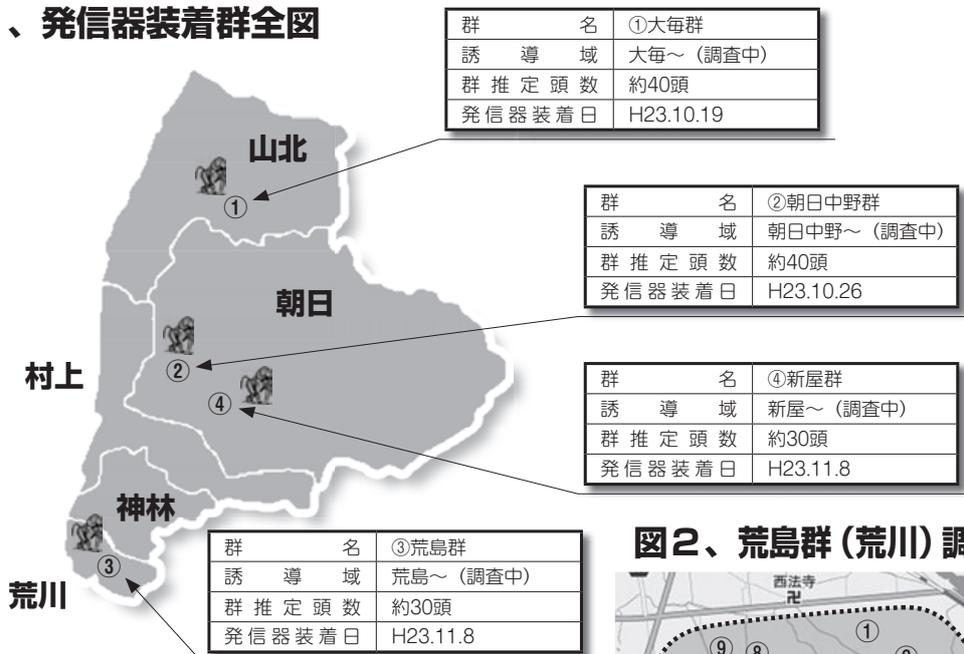


図2、荒島群（荒川）調査データ



◀装着した発信器
LT01（CH1～CH5）



① 梨木 [荒川]

効果あり



- 設置主体 梨木集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年9月11日 (設置人員：18名)
- 対象面積 約70a (地目：畑)
- 電気柵 周囲：約420m 出入口：3箇所
パワーボックス、ソーラーパネル：2式
- 設置経費 資材費：約38万円 (協議会負担)

対策の効果 (集落の声)

- 電気柵設置前は頻繁に農作物被害があり、何日も出沒していた時もあったが、設置後は被害は無く効果が確認された。
- 野菜作りの意欲が増した人や、休耕していた人が再び耕作を開始する動きがありました。
- 作りたい野菜を安心して作れるようになった。
- サルが好む野菜の作付が可能になりました。
- 集落におけるサル対策の意識が向上しました。

② 小岩内 [神林]

効果あり



- 設置主体 小岩内集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年9月4日 (設置人員：39名)
- 対象面積 約57a (地目：畑)
- 電気柵 周囲：約690m 出入口：11箇所
パワーボックス、ソーラーパネル：1式
- 設置経費 資材費：約63万円 (協議会負担)

対策の効果 (集落の声)

- 電気柵設置前は農作物被害に悩んでおりましたが、設置後は全く被害が無く効果がありました。電気柵を設置していない農地では被害がありました。
- 電気柵設置事業については、今後も継続してほしい。
- 電気柵の管理は思ったより簡単でした。
- 安心して野菜作りができると喜んでます。
- サル対策に強い関心をもつようになりました。

③ 南大平 [神林]

効果あり



- 設置主体 南大平集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年9月3日 (設置人員：17名)
- 対象面積 約62a (地目：畑)
- 電気柵 周囲：約420m 出入口：5箇所
パワーボックス、ソーラーパネル：1式
- 設置経費 資材費：約38万円 (協議会負担)

対策の効果 (集落の声)

- 電気柵設置前は頻繁にサルが来て被害がありましたが、設置後は電気柵の外に並んで中を伺う様子は何度か目撃したが、中に入れず退散しました。
- 電気柵付近の木から飛び込まれ一度侵入され被害がありましたので、改善が必要です。
- 今まで設置していた個々の防除柵を撤去することができ農作業がしやすくなりました。



④ 桃川 [神林]

効果あり



- 設置主体 桃川集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年9月10日 (設置人員：29名)
- 対象面積 約120a (地目：畑)
- 電気柵 周囲：約820m 出入口：12箇所
パワーボックス、ソーラーパネル：2式
- 設置経費 資材費：約75万円 (協議会負担)

対策の効果(集落の声)

- 電気柵設置後は、サルの侵入は全くなく被害は無かった。
- 野菜作りや果樹栽培の耕作意欲が増したことや、何よりも収穫の楽しみが倍增しました。
- 電気柵の設置及び撤去は思ったより簡単でした。
- 電気柵の範囲外の耕作者から、電気柵を設置してもらいたい旨の要望が聞こえてきています。

⑤ 門前 [村上]

効果あり



- 設置主体 門前集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年8月28日 (設置人員：17名)
- 対象面積 約57a (地目：畑)
- 電気柵 周囲：約360m 出入口：5箇所
パワーボックス、ソーラーパネル：1式
- 設置経費 資材費：約33万円 (協議会負担)

対策の効果(集落の声)

- 電気柵設置から撤去までの間、一度も被害は無かった。
- 設置前は効果があるのか半信半疑だったが、効果を実感することができて良かった。
- 今年度は設置期間が短かったので来春は早めに設置したい。
- 被害が無くなったので、これまで耕作していなかった農家もやる気を取り戻しつつあります。

⑥ 大月 [村上]

効果あり



- 設置主体 大月集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年8月27日 (設置人員：17名)
- 対象面積 約74a (地目：畑)
- 電気柵 周囲：約460m 出入口：4箇所
パワーボックス、ソーラーパネル：1式
- 設置経費 資材費：約40万円 (協議会負担)

対策の効果(集落の声)

- 電気柵設置期間中は被害は一度も無かった。
- 電気柵撤去二日後にサルの群れが現れた。撤去作業を見ていたのだと思われる。
- 設置が予想より簡単で、海風にも強く良くできた電気柵です。
- 大月は雪が少ないので、ほぼ一年中活用できます。
- 設置は高齢者には手間だが、防除効果はすごい。



⑦ 菅沼 [村上]

効果あり



- 設置主体 菅沼集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年9月11日 (設置人員: 15名)
- 対象面積 約86a (地目: 畑)
- 電気柵 周囲: 約480m 出入口: 6箇所
パワーボックス、ソーラーパネル: 1式
- 設置経費 資材費: 約43万円 (協議会負担)

対策の効果 (集落の声)

- 電気柵設置期間中は、サルが近寄ることはあっても中に入ることはなく、被害が無かった。
- サル対策は色々試みてきたが、この電気柵が一番効果がある。
- 耕作をしていなかった農家も意欲をみせている。
- 移動に手間がかかる。出入口の増設が必要。
- 設置前に十分集落で話し合いを行い、関係者が納得した電気柵を設置することが重要。

⑧ 岩崩 [朝日]

効果あり



- 設置主体 岩崩集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年9月4日 (設置人員: 38名)
- 対象面積 約362a (地目: 畑)
- 電気柵 周囲: 約970m 出入口: 11箇所
パワーボックス、ソーラーパネル: 1式
- 設置経費 資材費: 約84万円 (協議会負担)

対策の効果 (集落の声)

- 電気柵設置から撤去までの間、被害が無く効果が確認できた。
- 野菜作りに意欲を燃やす人が多くなりました。
- 個々で設置していた防除柵が不用になり、野菜作りが容易になり楽しみになりました。
- 電気柵の管理を通して、サル対策のまとまりが強くなりました。

⑨ 高根 [朝日]

効果あり



- 設置主体 高根集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年8月26日 (設置人員: 15名)
- 対象面積 約48a (地目: 畑) ※2箇所
- 電気柵 周囲: 約550m 出入口: 5箇所
パワーボックス、ソーラーパネル: 2式
- 設置経費 資材費: 約50万円 (協議会負担)

対策の効果 (集落の声)

- 電気柵設置後、近くにサルがきて吠えていたりしていたが、柵の中に入ることは無く、被害は出なかった。
- サルによる被害の心配が無くなったので、その分の体力を別なことに使うことができるようになり、作付面積を増やす意欲が増しました。
- 効果が実証されて、近所の農家も導入を考え始めました。



ニホンザル防除用電気柵設置（鳥獣害防止施設の取り組み）No.4

⑩ 黒田 [朝日]

効果あり



- 設置主体 黒田集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年8月26日（設置人員：17名）
- 対象面積 約186a（地目：畑）
- 電気柵 周囲：約600m 出入口：5箇所
パワーボックス、ソーラーパネル：1式
- 設置経費 資材費：約49万円（協議会負担）

対策の効果（集落の声）

- 電気柵設置後、被害はなく効果が確認されました。
- 個人設置の防除網が不用になり作業しやすくなりました。
- 効果が確認されたので、今後は電気柵内の農地を譲り合って構成員（耕作希望者）の増員を図りたい。
- 維持管理が大切なので、今後更に協力し合い行ってきたい。

⑪ 大毎 [山北]

効果あり



- 設置主体 大毎集落猿害対策組合
- 設置年月日 平成23年9月21日（設置人員：15名）
- 対象面積 約40a（地目：畑）
- 電気柵 周囲：約300m 出入口：3箇所
パワーボックス、ソーラーパネル：1式
- 設置経費 資材費：約27万円（協議会負担）

対策の効果（集落の声）

- 電気柵設置が作物（山ぶどう）収穫の直前（9月）になったが、被害はありませんでした。
- 栽培面積が少ないが、容易に電気柵を設置できたので、今後機会があれば設置を希望したいとの声があります。
- 他集落より、個人で設置したいが経費はどのくらい要するのか問い合わせがあった。



村上市有害鳥獣被害防止対策協議会（H21.10.13設立）

本協議会は、「鳥獣による農林水産業等に係る被害防止のための特別措置に関する法律」に基づき、有害鳥獣による農作物被害に対し、関係機関による情報の共有と連携強化を図りながら、効果的な被害防除対策を推進することを目的に設立し、取り組みを実施しています。

■構成機関（連絡先）

- ・村上市（事務局：53-3368）
- ・新潟県村上地域振興局
- ・JAにいがた岩船（52-0514）
- ・JAかみはやし（66-6383）
- ・下越農業共済組合
- ・猟友会村上支部
- ・鳥獣保護員

▼詳しくは、ホームページアドレス

<http://www.city.murakami.lg.jp/nourinsuisan/yougaityoujuutaisaku.jsp>